

令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

I	スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
II	マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
III	スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
IV	日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
V	スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 群馬県 】

学校名【 富岡市立妙義中学校 】

1 実践テーマ	I ・ III ・ V
2 実施対象者 (学年・人数)	富岡市立妙義中学校 全校生徒 (男子38名 女子32名 計70名) 第1学年 (男子19名 女子 9名 計28名) 第2学年 (男子10名 女子 9名 計19名) 第3学年 (男子 9名 女子14名 計23名) 教職員 19名 講演会(12月11日)参加保護者 4名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名(学級活動 総合的な学習の時間) ② 行事名(オリンピック・パラリンピック教育講演会) ③ その他(生徒会朝礼)
4 目標 (ねらい)	○オリンピック・パラリンピックへの興味関心を高め、スポーツをより多くの人と交流しながら楽しむ心の育成を図る。 ○グローバル化された社会の中で、多様な人権を互いに尊重し合い、共に力を合わせて生活する共生社会を築いていこうとする意欲と態度の育成を図る。 ○アスリートの生き方や思いを聞き、自分の将来の生き方について考え、夢や目標をもって生きていこうとする意欲と態度の育成を図る。
5 取組内容	1 妙義中学校 オリンピック・パラリンピック教育推進委員会の組織編成 ○推進委員の構成 校長、教頭、教務主任、オリンピック・パラリンピック教育推進主任、学年主任、PTA 会長 ○推進委員会での協議内容 ・取組の方向性の協議 ・推進計画の作成 ・推進計画の実践、評価、及び報告書の作成 2 オリンピック・パラリンピック教育推進事業に係る取組 【1 学期】

(取組内容)

①事業概要の把握と取組内容の検討

・群馬県教育委員会健康体育課、西部教育事務所、富岡市教育委員会との連携

②オリンピック・パラリンピック教育推進委員会への出席

③推進計画の作成（推進委員会の開催）

④教職員の共通理解

⑤全校朝礼での講話

【2学期】

①全校朝礼での講話

全校朝礼において校長より、世界各国の国旗の表示を通して、オリンピック・パラリンピックには多くの国が参加すること、また、実施される種目の紹介を通して、たくさんの競技が東京を中心として実施されること、そして、教育講演会の講師である今井美穂さんの紹介等について講じられた。それによって生徒のオリンピック・パラリンピックへの関心の高揚につなげることができた。



②妙中祭での生徒会長によるオリ・パラ推進の呼びかけ

10月1日 妙中祭（運動会）

妙中祭の開会式における生徒会長挨拶の中で、オリンピック・



パラリンピック教育推進校として妙義中学校が取り組んでいる内容紹介等を行い、オリンピック・パラリンピックへの関心を高めるとともに、競技に向けての生徒のモチベーションを高めた。

③オリンピック・パラリンピック教育講演会

12月11日 14:00～15:00 於 妙義中学校体育館


参加者 生徒70名 教職員11名

講師 今井 美穂 様

（東京オリンピックマウンテンバイク日本代表）

2020年東京オリンピックの日本代表に内定している、今井美穂さんを講師とした講演会を実施した。富岡市出身の今井さんから御講話をいただいた。

全日本選手権3連覇に向けて努力してきたことやその裏舞台について、また、自身の幼少時代から学生時代の様子や現在の自分へのつながり、陸上競技から自転車競技に転身したきっかけ等について話していただいた。さらに、自身所有のマウンテンバイクを持参し、機能の紹介や生徒の試乗体験をしていただいた。最

<p>(取組内容)</p>	<p>後に生徒に向けて「今できることを全力で。」「何よりも楽しむ。」「可能性は無限大。」「自分を信じてあきらめずに続けていけば必ず夢は叶う。」という思いを伝えてくださった。生徒にとって今後の人生を前向きに生きる原動力を得ることができたと思われ、大変有意義な講演会となった。</p>  <p>○生徒の感想（抜粋）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「私も苦しくて逃げたくなることがありますが、全力で楽しく思えるようにがんばります。」 ・「先生と選手の両立はすごいとおもいました。」 ・「今できることを全力でがんばります。」 ・「自分の可能性は無限であることを信じてがんばりたいと思います。」 <p>生徒は、夢を持つこと、目標に向かって努力することの大切さを学ぶとともに東京2020オリンピック・パラリンピックへの興味、関心を高めることができた。</p> <p>【3学期】</p> <p>①パラリンピック正式種目（ボッチャ）の体験 1月21日 第1学年 パラリンピック正式種目である「ボッチャ」の体験授業を学級活動の時間に実施した。はじめに、ルールを説明し、その後、実際にゲームを体験した。生徒は、一投によって勝敗が決する「ボッチャ」の楽しさを味わいながら、笑顔いっぱいにゲームに興じていた。ゲームの途中で作戦タイムを設けるなど、グループで考える活動も行うことができ、チームワークの大切さも学ぶことができた。</p>
<p>6 主な成果</p>	<p>○2ヶ年に渡ってオリンピック・パラリンピックへの理解を深めることを通して、生徒の2020年オリンピック・パラリンピック東京大会へ主体的に関わろうとする意欲を高めることができた。</p> <p>○教育講演会への参画を通して、関心を高めるとともに自分の将来の生き方について考え、夢や目標をもって生きていこうとする意欲と態度を育成することができた。</p> <p>○保護者や地域に「オリンピック・パラリンピック教育推進事業」の取組の紹介や講演会への開催を呼びかけることを通して、本事業への支援を「チーム妙義中」で行う意識を高めることができた。</p>

<p>7 実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<p>○妙中祭での生徒会長の挨拶や学校 HP 掲載を通して、広く保護者や地域の方にも本事業の取組を伝えることができた。</p> <p>○オリンピック・パラリンピック教育講演会に地元富岡市出身の今井さんを講師としてお招きした。地元富岡市での中学校、高等学校時代のエピソードは、生徒の興味、関心を高めることにつながり、地元の特色を生かした取組となった。</p>
<p>8 主な課題等</p>	<p>今年度の取組によって東京オリンピック・パラリンピックへの興味、関心が高まった。</p> <p>次年度は、実際に行われる東京オリンピック・パラリンピックに、どのように関わっていくのか。どのように関わらせることをゴールの姿とするかを明確にしていくことが課題である。</p>
<p>9 来年度以降の実施予定</p>	<p>オリンピック・パラリンピックに関わる講演や実践を通して、東京2020オリンピック・パラリンピックへの興味関心をより高めていく。そして、その経験を通して、自分の将来の生き方について考え、夢や目標をもって生きていこうとする意欲と態度の育成を図っていく。</p>